

鵜戸神宮：九柱神社

九柱神社は、規模は小さいものの、神社の9つの扉の後ろに1人ずつ、合計9人の神道の神様が祀られています。9人の神様は、日本の神話の鍵となる初めての清めの物語と関係しています。清めは禊または祓と呼ばれ、神道では中心的な儀式であり、礼拝の前に心と体をきれいにするために行われます。神社では、入り口で手と口を洗うことによってこれを行います。日本の建国神話では、イザナギとイザナミという兄妹の神が日本列島の島々を生み出し、さらにさまざまな神を生み出してその島々に住まわせました。イザナミはその務めを果たす前に亡くなってしまい、イザナギは妹を地下の国から連れ戻そうとしました。その試みは成功せず、現世に戻ってきた彼は、水に浸かって死者の世界の穢れを洗い落とします。この清めの結果、25人以上の神様が生まれ、九柱神社に祀られている9人の神様もそこに含まれています。その中には、住吉三神として知られるソコツツ、ナカツツ、ウワツツもいます。海と船乗りの守り神であるこれらの神は、鵜戸神宮が海岸にあり、地元の漁師に人気があるため祭神に含まれています。